

EVENT REPORT

子育て応援セミナー 第1回

こどもの「こころ」の成長のひみつ

2023.10.1(日)10:00~12:00

@大野東市民センター



わが子の成長はうれしいけれど、悩みや迷いも尽きないのが、成長期の子育てです。

そんな子育て中の皆さんを応援するための「学び」と「おしゃべり」の機会として、子育て応援セミナー（全3回）を開催しています。

第1回は、17人が参加しました。児童家庭支援センターコスモスで、臨床心理士・公認心理師として働いておられる岡本朝美さんを講師にお招きして、こどもの「こころ」の成長過程や仕組みを、映画「千と千尋の神隠し」になぞらえて、分かりやすくお話していただきました。

こどもの「こころ」の成長のひみつ

講師 児童家庭支援センターコスモス 岡本 朝美さん



【10歳のひみつ】

- 10歳は、これまで親の言うことがすべてだと思い生きてきた子どもの意識が、自分の意思で判断することができるようになるための重要な時期。世界との一体感から、日常の「切れ目」に気が付き始める。

【10歳=自己意識の芽生える時期】

- 自分で自分のことを意識する。外からの視点を持つようになり、この世に「私」という唯一の存在があることを強く意識するようになる。
- 10歳に生じる「切れ目」でこどもは、絶対不変と思っていたものが崩れ

去る、という大人の目には見えない闘いを、心の中で経験している。この「変化」は、これまでのあり方から新しい自分になるということ。この時期、こどもは、心の中ですごいことをやっている。

【映画「千と千尋の神隠し」から】

親がブタに変わる：親の人間としての弱さ、自分勝手に裏表のある汚ない面を見たとき、頼りにしていた親がブタになってしまったほどの衝撃をこどもは受ける。こどもにとっては、身を切られるほど辛く、自分を守ってくれる親を喪失した悲しみに近い。けども、親も人間。こどもが成長を続ける限り、親の弱さを見られるのは当たり前のことである。

ハクのことは：「こわがるな。私はそなたの味方だ」、「今は無理だが必ず会えるよ」、「千尋はよくがんばった」、心の深いところに届くハクの言葉。こどもは、親や先生の要求に応えようとしたが、うまくいかず挫折感を味わうことは多く、そんなとき、露骨にがっかりする大人もいる。そういう反応を見たこどもは心が折れてしまうことも。こどもの失敗に対して、その落胆を「怒る」という攻撃に置き換えて、こどもを責めてそうになったとき、ハクの言葉を思い出してほしい。

湯婆婆と銭婆：湯婆婆は息子「坊」を、守っていると見せながら、完全に親の枠の中に閉じ込めてしまい、親の強力なコントロールから逃れられない。壁も床もふかふかの部屋で、まるで母親の子宮の中にいるようである。一方、一人静かに暮らす銭婆は、悩んでいる子の居心地のいい場所を提供したり、許しを与えたり、自立を促したりすることが自然にできる。大勢の人を統率する湯婆婆のような力はないが、自分の好きなことをひとつずつ大事にやっていく生活を銭婆は送っている。こどもの自立を妨げる母性と、こどもの自立を支える母性の2面性、大人はどちらも持っている。



カオナシって？：本当にさびしくて空虚な存在である。自分が何をしたいのか、自分をどう主張していけばいいのかわからない。どうしたら他者と関係を結べるのか、その手段を知らないのである。そんなカオナシに最初に気がついた千尋。孤独だったカオナシは、自分の存在に気がついてくれた千尋に強い関心を持つようになる。カオナシは言葉を持たないため、物に託して、相手に自分の気持ちを伝えようと必死。適度な量をはるかに超えて、友だちにやたらえんぴつや消しゴムをプレゼントしたり、物で気持ちを表現することも思い浮かべる。

錢婆に「わたしの手助けをしてくれ」と言われ、カオナシは無条件に受け入れてくれる母性を体験する。こどもが本当に成長していくためには、大人や周りの人から向けられる子どもへの敬意が大切。錢婆は、自然に、心からその子を認めている。子どもは愛されるだけでなく、自分の意思で何かをしようとしていることに対して、自然な敬意を示してくれる人がある、そして、自分が人の役に立てているという実感を持てたときに自立へ向かう力が出てくるのである。

お話を聞いた後は2つのグループに分かれて、おしゃべりをしました。

自己紹介をして、講師の方のお話を聞いた感想や気付いたことの共有からはじまって、日頃の子育ての悩みなど、話題は多岐にわたり、楽しい時間となりました。

グループ別おしゃべりタイム

ファシリテーター 中丸 直見さん

【おしゃべりタイムの約束ごと】

- ★ 1つめは、「みんなが同じくらいの時間話す」こと、2つめは、「人の意見を否定しない、認め合う」こと、3つめは、今日聞いたことをよそで話したりしないで、「秘密を守る」こと。
- ★ 話をするときに、「パス」はあります。話したくないことは、話さなくていいですよ。
- ★ この約束を守りながら、皆さんが気持ちよく安心して話せる場を、みんなでつくっていきましょう

～おしゃべりの様子～

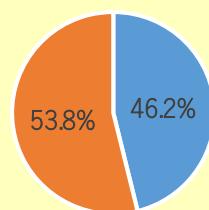


～ 参加者の「今日の感想」から ～

※一部を紹介します

- 自分の行動を振り返って、こどもに向き合うこと、こどもに対する敬意を払うことが本当にできていなかったと反省しました。少しでも子どもに自分が大切に思っていることが伝わるように、たくさんノウハウを身につけていきたいです。
- 「こころ」の成長を、まさしく息子がしていて、いろいろタイヘン!!でも、タイヘンなことはみんなもあって、決して自分のこどもだけではないということがよく分かって、気持ちが楽になりました。
- 「千と千尋…」がすごく深い映画だと思いました。グループワークで同じ悩みを持っている方と話ができて、少し楽になりました。
- 自分も10代を過ごしてきたのに、そんな変化が起きていたとはびっくりしたし、今の子どもたちに起きている変化として、とても勉強になりました。
- 子どもたちの内面でそんな変化があるということにびっくりしましたが、自分もこどもの頃そんな風に思っていたなあと思い出せたことが、大きな収穫でした。
- さまざまな悩みを皆さんが持たれていて、こうして悩みながらこどもの成長とともに親も成長していけばよいなと思いました。

参加者の年代



■ 30代 ■ 40代